

丹比屋主真人の歌一首

一〇三一番

後れにし 人を偲はく 思泥の崎 木綿取り垂で
て 幸くとそ思ふ

狭残の行宮にして、大伴宿禰家持の作る

歌二首

一〇三二番

大君の 行幸のまにま 我妹子が 手枕まかず
月そ経にける

一〇三三番

御食つ国 志摩の海人ならし ま熊野の 小舟に
乗りて 沖辺漕ぐ見ゆ

美濃国の多芸の行宮にして、大伴宿禰東人の

作る歌一首

一〇三四番

古ゆ 人の言ひ来る 老人の をつといふ水そ
名に負ふ滝の瀬